

◇教学研究室公開講座開催のご報告

日本印度学・仏教学会理事長の下田正弘先生（東京大学大学院教授）をお招きしての教学研究室の公開講座「大乘仏教研究の現在―大乘経典の出現―」が、八月二十三日、西本願寺高岡会館において開催されました。

積尊入滅後数百年を経て、大乘仏教という新しい仏教が誕生しました。それはどのようにして生まれたのでしょうか。大乘の経典は紀元前後には既に北インドに存在しています。しかし、考古学的史料が示す大乘教団の存在は、五・六世紀まで下らないと確認できません。また、法顕や玄奘の旅行記には、大乘と小乗の僧侶が同一僧院内に居住する様子が記述されています。私たちは日本や中国の仏教からインドの大乘教団の起源を想定してしま

いますが、現実は少し異なるようです。

出家者が妻帯



せず、子孫を残さないインドの教団においては、在家者の中から新しい出家者が生まれにくい限り、み教えは存続していきません。「出家者か、在家者か」という二分法ではなく、両者の関係こそが重要です。近年の研究では、僧院の所有権は在家者に属し、出家者にはその利用権が与えられていたことが明らかになっていきます。そして、経典の伝承と保存にも在家者は大きく関わっていました。

積尊入滅後、三・四百年の間、教説は口頭で伝承されてきましたが、紀元前後に経典が書写されるようになり、このことが決定的に重要であったと下田先生は言われます。声から文字への転換は人類の認識に劇的な進化をもたらしました。師匠から弟子への口頭伝承では、師匠こそが経典で異論は生まれません。しかし、書写の導入により教えは人を離れ、書かれたテキストが権威となります。書写経典の出現によって積尊のことばの正統性が逆に問われることとなり、以前の伝承を解釈し直して新たな経典へと転換する創成運動が起こり、仏教世界はより豊かに大きく深く広がっていきました。

初期仏教は、この世界は「無常」であり「無我」であると説くに留まっていた。実践的行為が中心で、言語的に思想を進化させることがありませんでした。大乘仏教の出現により現実世界を超越した

「真実の世界」が言語化され、他者の救済を主眼とする壮大な知の大系が打ち立てられていったのです。特定の大乗仏教の共同体があらかじめ存在して大乘経典が創られたのではなく、大乘経典というテキストの創成を通じて、それに相応した儀礼や修行を伴う大乘教団が形成されていったのです。

教学研究室では、時代に即応した学際的な教学の研究動向を教区の皆様にご紹介する公開講座を折に触れ開催しております。ご参加、ご聴講をいただければ幸いです。

教学研究室 室長 津山玄亮

★第一回「御同朋の社会をめざす運動」

人権啓発推進僧侶研修会開催

去る九月五日（月）、西本願寺高岡会館礼拝堂において二〇二二年度第一回「御同朋の社会をめざす運動」人権啓発推進僧侶研修会が開催され、僧侶・門信徒スタッフ合わせて五十名あまりが参加した。

今回のテーマは『経典における』差別語・差別表現とどう向き合うのか」

講師の麻田秀潤さん（新潟教区 同和教育振興会派遣講師）より、「梅陀羅」の解釈に代表されるように、私たちの教団には、これまで経典の文言を根拠に部落差別をはじめとする社会にある様々な差別を正当化し、流布してきた歴史的事実があると提起。経典には差別語や差別表記があるものの、そのことをどう理解す

るのが重要であり、まさに私たちの教えの受け止めが問われているとされた。（詳細は次回御同朋の社会をめざす運動のコーナーにて）

今後、第二回は九月十六日（金）午後五時半、第三回は九月十七日（土）午後一時半より開催される。

▽西本願寺高岡会館駐車場車止め白線引き直し工事完了

去る七月、西本願寺高岡会館駐車場の車止め白線の引き直し工事を実施いたしました。

新たに会館前に二台分の車椅子使用者優先マークを入れた駐車スペースを設けました。ご利用にご配慮いただきますようお願い申し上げます。

高岡教務
の注文を受
頂ければご
※担当の北

○法語

○ほの

○月々

○心に

◇御同朋の社会をめざす運動のコーナー◇

—全戦没者を悼み平和を願うつどい二〇二二を終えて—

八月十日午後二時より第二十九回全戦没者を悼み平和を願うつどいを西本願寺高岡会館礼拝堂で開催いたしました。昨年までは新型コロナウイルス感染拡大を鑑みて入場制限やご講師のリモート講義などを行いました。本年は通常に近い型で執り行わせていただきました。

全戦没者追悼法要は森尾淳章教務所長の調声をいただき正信念仏偈を勤修し、多くの参加者が先の大戦で亡くなられた方々への追悼をいたしました。

記念講演では平和学者、立命館大学国際関係学部教授・国際NGO「非暴力平和隊・日本」共同代表の君島東彦（きみじま あきひこ）先生により、「いま平和について考える—ウクライナ、東アジア、我々の平和原理」のご講義をいただき、質疑応答をいたしました。講義では平和学の成り立ちから、現在も続いておりますロシアによるウクライナ侵攻がいかに国際法に反しているのか、

東西冷戦が終了したにも関わらずNATOだけが拡大しヨーロッパに安定的な秩序が作れなかったのか、また、アメリカ下院議長の台湾訪問によって新しい冷戦が生まれようとしている事などメディアからは伝わってこない貴重なご講義を受けさせていただきました。

平和学の成り立ちの中で「平和とはすべての敵意が終わることである」ドイツの哲学者イマヌエル・カントの言葉を紹介され、敵対ではなく信頼醸成、排除ではなく包摂、勢力均衡ではなく包括的制度化、軍拡ではなく軍縮、戦争準備ではなく戦争予防を重視するという考え方は日本国憲法の平和原理（前文・九条）と共鳴しあうものである。ロシア・ウクライナ戦争の終結や東アジアの緊張に中国、台湾、米国、日本の武力行使を防ぐことが喫緊の課題であると教えていただきました。

八月は終戦記念日、広島・長崎の追悼式など戦争の悲惨さを考え平和を願う月であります。今回のつどいを通して仏教徒として真宗門徒として、ひとつひとつの命が尊ばれる社会の実現を目指して非戦平和の学習を深めていきたいとあらためて考える機会となりました。

ラジオ放送（西本願寺の時間）

『みほとけとともに』

北日本放送（KNB）・738kHz.

□第2・4日曜日（富山・高岡制作）午前6:00（6:10）

●10月9日（日）

寺西良夫師

（高岡教区）

●10月23日（日）

濱野信宏師

（高岡教区）

※西本願寺が主催し、北日本放送（KNB）にて放送してまいりました毎週土曜日午前5時35分からの『西本願寺の時間』は、2022年9月末をもって放送終了となります。

また、高岡教区及び富山教区が主催し、北日本放送（KNB）にて放送しております毎週日曜日午前6時からの『西本願寺の時間』は、今後も放送いたします。

西本願寺では、動画配信サイトを設置し法話等を配信しております。ご視聴ください。

<https://broadcast.hongwanji.or.jp/>

【ヤスクニ問題専門委員会委員長 菊地勢滋】

☆お知らせ☆

【西本願寺法苑会館小講堂例法座】

お茶菓子やご法事・ご法座の折のお扱いにいかががご講師よう。お申し込みは下のとおり。

奥村眞照師

FAX. でのお申し込みも承ります。どうぞご利用下さい。 （砺波組照傳寺）

ご講題：袋に格入して価格は次の通り
お念14のみの教え
・特大箱（170袋）70,000円

午後1時20分頃からビデオ上映 6000円

お申込み先：〒930-0446 高岡市東土曜446 高岡教務所内
お誘いあわせてお参りください（寺族青年会担当）

Tel. (050) 5587-7708(代表)

Fax. (0766) 21-5152